

朝鮮總督府編纂

普通學校

國語補充教材

消

## 凡 例

一、本書ハ現行國語讀本ノ教材ヲ補ハンガタメ編纂シタルモノニシテ、國語讀本卷八ヲ授ケ終リタル後使用スベキモノトス。

二、文章ハ從來兒童ノ習熟シ來レル口語體ヨリ入り、先ヅ崇敬體ヨリ始メテ常體ニ移リ、次ニ文語體及ビ普通ノ書簡文體若干ヲ授ケ、以テ主ナル文體ノ種類ヲ略、知得セシムルコトトセリ。

三、本文ノ假名遣ハ歴史的假名遣ヲ用フ。

四、兒童學習ノ便宜上、固有名詞竝ニ新語中特ニ必要ト認ムルモノニハ振假名ヲ附ス。但シ振假名ハ表音的假名遣ニ依ル。

五、新語ノ主ナルモノハ、之ヲ各課ノ上欄ニ摘出ス。

六、本書ハ練習ニ重キヲ置キ、各課ニ之ヲ設ケタルヲ以テ、教授ノ際

ハ殊ニ注意シテ十分之ヲ活用センコトヲ要ス。

七、附録ハ教師竝ニ兒童ノ參考用トシテ加ヘタルモノナレバ、本文  
同様ニ教授スルニ及バズ。

# 目次

第一課	大日本帝國	一
第二課	明治天皇	七
第三課	五穀の効用	十一
第四課	我が國の重要物産	十五
第五課	實業	二十
第六課	稻橋村の美風	二十四
第七課	我が國ノ風景	二十九
第八課	日誌	三十三
第九課	爲スベキ事ハスグニ爲セ	三十八
第十課	職業には貴賤の別がない	四十
第十一課	養雞	四十六
第十二課	安着の通知	五十二

第十三課	廢物ノ利用	五十六
第十四課	組合の利益	六十
第十五課	種子の注文	六十四
第十六課	養蠶	六十九
第十七課	桑の栽培	七十六
第十八課	老農中村直三	八十一
附錄		
一、本邦面積及ビ人口(第一課ノ參考)		一
二、本邦主要開港場(第一課ノ參考)		一
三、吉野山・瀬戸内海・阿蘇山・金剛山・那智瀧・富士山ノ説明(第七課ノ參考)		二
四、君が代の歌(第八課ノ參考)		四

五、產業組合(第十四課ノ參考).....	四
六、地方金融組合(第十四課ノ參考).....	五
七、契(第十四課ノ參考).....	六
八、振替貯金ノ組織(第十五課ノ參考).....	八
九、農産物種子ノ郵便料(第十五課ノ參考).....	九
十、蠶種ノ催青(第十六課ノ參考).....	九
十一、桑ノ仕立方(第十七課ノ參考).....	九
十二、參考地圖.....	十

普通國語補充教材

第一課 大日本帝國

我が國ハ亞細亞洲ノ東部ニ位シテ、多クノ島ト一  
ツノ半島カラ、成立ツテキマス。島ノ中、殊ニ大キ  
キハ、本州・四國・九州・北海道・本島・臺灣・樺太カラフト（南部）デ、  
半島トイフノハ朝鮮デアリマス。全國ノ面積ハ  
凡ソ四萬三千方里、人口ハ六千八百萬ホドアリマ  
ス。

國內ニハ山ガ多ク、川ハ大抵流ガ急デ、大キナ平野

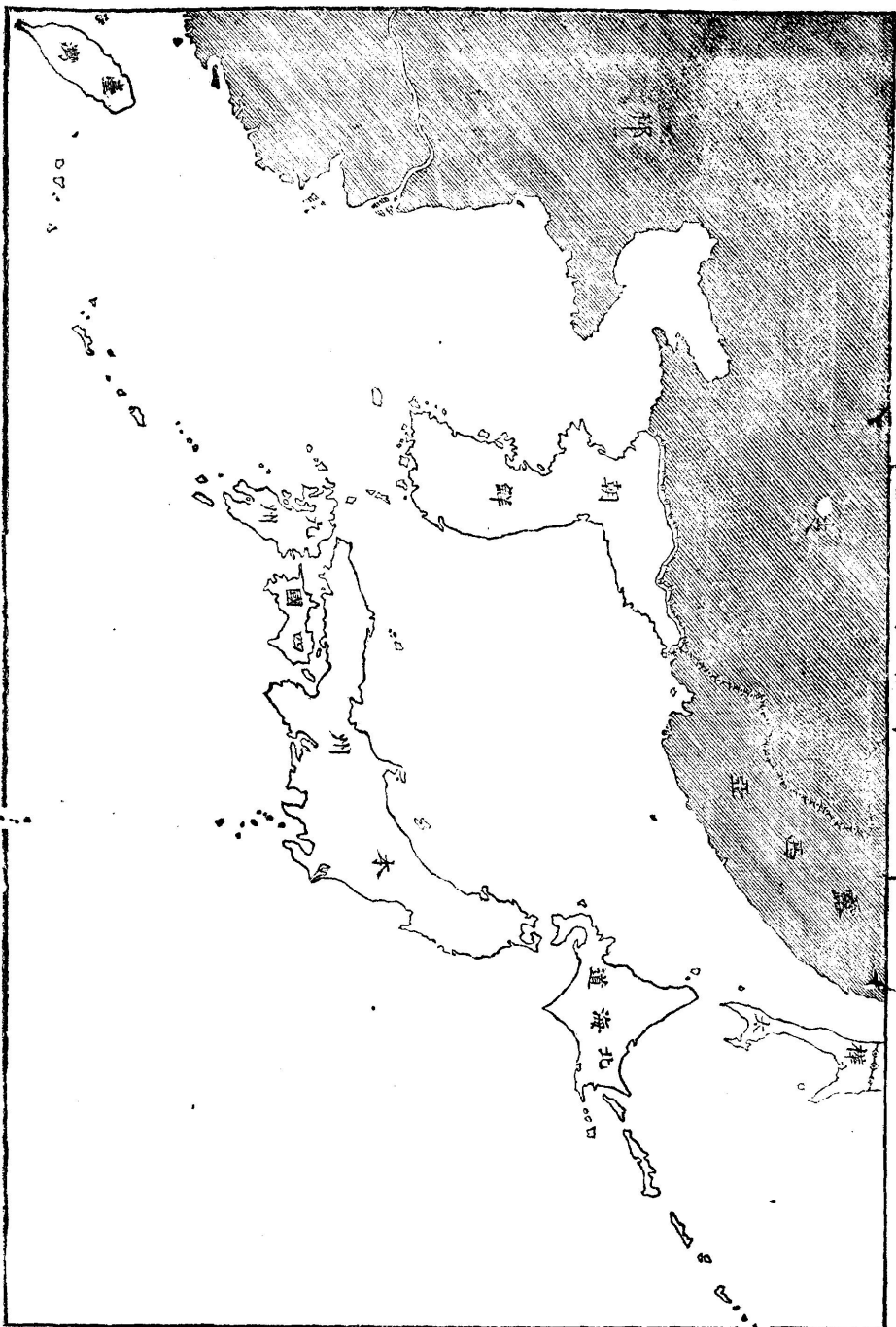
處

ナカ

ハ少ナウゴザイマス。ケレドモ、地味ハ一般ニ肥沃<sup>ヨク</sup>デ、耕サレナイ處ハ殆ンドアリマセン。氣候ハ、北ノ方ニハ、ズイブン寒イ處モアリ、南ノ方ニハ、ナカ<sup>ナカ</sup>暑イ處モアルガ、全國大抵<sup>オホニ</sup>溫和<sup>ワカ</sup>デアリマス。海岸線ハ出入ガ多イカラ、良イ港モ澤山アリマス。又、ドコヘ行ツテモ、景色ノ美シイ處ガ少ナクアリマセン。

氣候ガ色々デ、地味ハ良イシ、其ノ上、山モ多ク、陸地ガ殆ンド皆海デ圍マレテヰルカラ、自然ニ產物ガ澤山アリマス。其ノ中、一番多イノハ農產物デ、農

大日本帝國略圖



大イニ  
種々  
盛ンニ

行ハレ

哩  
マイル

業ハ實ニ我が國第一ノ産業デアリマス。工業モ  
 近年大イニ進歩シテ、種々ノ製造<sup>セイゾウ</sup>ガ盛<sup>セイ</sup>ンニナリマ  
 シタ。鑛產物モ澤山アツテ、年々產額<sup>サンガク</sup>ガ多クナツ  
 テ行キマス。近海ニハ寒流ト暖流ガアツテ、魚類<sup>ギョレイ</sup>  
 ヤ其ノ他ノ海產物ガ大變多ウゴザイマス。貿易<sup>ボウエキ</sup>  
 ハ重<sup>ベ</sup>ニ米國<sup>コク</sup>・英國・支那等ト行ハレマス。開港場ハ  
 全國ニ五十餘アリマスガ、其ノ中デ、横濱ト神戸ガ  
 一番盛ンデゴザイマス。  
 鐵道線路ノ延長<sup>エンチヨウ</sup>ハ六千餘哩ニ達シテ、田舎モ段々  
 交通ガ便利ニナツテ行キマス。海運モヨク發達

アソバサレ

仰

省<sup>シロヤ</sup>

シテ、方々ノ港ニハ、船ノ出入ガ多ク、横濱・神戸等カ  
ラハ、諸外國ヘモ船ガ往復シマス。

我ガ國ハ萬世<sup>イツケイ</sup>一系ノ天皇ガオ治メアソバサレ、政

府ハ天皇ノ仰ヲ受ケテ、政治ヲ行ヒマス。政治ヲ

行フタメニ、東京ニ、内閣<sup>ガイム</sup>ト外務・内務・大藏<sup>オウザウ</sup>・陸軍・海軍

司法<sup>シホウ</sup>・文部<sup>モンブ</sup>・農商務<sup>ノウモウブツ</sup>・逓信<sup>テイシン</sup>ノ九省ガアリ、地方ニモ色々

ノ官廳ガアリマス。又、裁判ヲスルタメニハ、大審<sup>ダイシン</sup>

院<sup>イン</sup>・控訴院<sup>コウソイン</sup>・地方裁判所・區裁判所等ガアリマス。教<sup>キョウ</sup>

育<sup>イク</sup>ハ大イニ進歩シテ、小學校・中學校・高等女學校・實

業學校其ノ他高等ノ學校ガアリマス。ソシテ、朝

護ル

鮮ニハ別ニ普通學校・高等普通學校・女子高等普通學校・實業學校ナドガアリマス。又、我が國ヲ護ルタメニハ、立派ナ陸海軍ガアリマス。

### 練習

次ノ問ニ答ヘナサイ。

- (一) 我が國ノ面積ト人口ハイクラデスカ。
- (二) 我が國ニハ、ナゼ物産ガ多イノデスカ。
- (三) 我が國ハ、ドナタガ、オ治メニナツテキマスカ。
- (四) 我が國ニハ、ドウイフ官廳ガアリマスカ。
- (五) 我が國第一ノ産業ハ何デスカ。

渡セラレ

(六) 我が國ニハ、海產物ハアリマセンカ。

(七) 我が國ト貿易スル重ナ國ナイツテゴランナサイ。

(八) 開港場ノ中デ、ドコガ一番盛ンデスカ。

(九) 鐵道線路ノ延長ハドノ位アリマスカ。

(一〇) 我が國ニハ、ドンナ學校ガアリマスカ。

(一一) 内外ノ海運ハドウデスカ。

(一二) 我が國ヲ護ルタメニハ、ドウイフモノガアリマスカ。

## 第二課 明治天皇

明治天皇ハ 今上天皇陛下ノ御父君ニ渡ラセラレ、御年十六デ御踐祚<sup>センソ</sup>アソバサレテカラ、四十餘年

施サレ

オカクレ

租税

免シ

導ク

賜ハリ  
境涯

備ヘ

ノ間、御仁<sup>ジンセイ</sup>政ヲ施サレテ、我ガ國ヲコノヤウニ盛ン  
ニナサレマシタ。ソウシテ、明治四十五年七月三  
十日ニ、オカクレニナリマシタ。

天皇ハ、明治四十三年八月、朝鮮ノタメ、租税ノ一部  
ヲオ免シニナリ、大赦<sup>ダイシヤ</sup>ヲ仰セ出サレ、兩班儒生<sup>ジュセイ</sup>ノ中  
デ、ヨク人民ヲ導ク者ヤ、孝子節婦<sup>セツブ</sup>ナドニハ、恩賞<sup>ガンジョウ</sup>ヲ  
賜ハリ、又、哀レナ境涯ノ者ニハ、御救恤金<sup>ゴキウシユツ</sup>ヲクダサ  
レマシタ。

天皇ハ、又、恩賜金一千七百餘萬圓ヲ朝鮮ニ下賜サ  
レマシテ、産業ヤ教育ヲ進メタリ、饑饉<sup>キケン</sup>ナドニ備ヘ

設  
ケ

行渡  
ル  
骨ヲ折ツ  
テ

捧  
ゲ  
テ

タリスルヤウニサレマシタ。各道デハコレヲ基  
トシテ養蠶ヨウサンヤ機業キギヨウナドノ傳習所デンシユウジョヲ設ケタリ、種苗シュエビヨウ  
ヤ農具ヲ農家ニ配布シタリ、又ハ普通學校ヲ建テ  
サセタリ、又、洪水旱魃カンバツナドノ災難ニ出會ツテ困ル  
者ヲ救フ方法ヲ設ケサセタリシテ、天皇ノ思召オホシメシ  
ガヨク行渡ルヤウニ、色色ト骨ヲ折ツテ居マス。  
明治天皇ノ御恩ハ、カヤウニ鴻大コウダイデゴサイマス。  
其ノ御恩ニ報イルタメニハ、今上天皇陛下ニ眞マ  
心ゴコロヲ捧ゲテ、メイノ職業ヲ怠ラヌヤウニ務メ  
ルノガ一番大切デアリマス。

練習

一、私ハ

姉サンハ

心配シマス。

姉サンハ

心配ナサイマス。

オ母サンハ

御心配ニナリマス。

オ母サンハ

御心配アソバサレマス。

二、私ハ字ヲ

兄サンハ字ヲ

書カレマス。

兄サンハ字ヲ

オ書キナサイマス。

オ父サンハ字ヲ

オ書キニナリマス。

オ父サンハ字ヲ

オ書キアソバサレマス。

### 第三課 五穀の効用

大切

米・麥・粟・黍・豆、これが五穀である。此の中、米が一番

炊き

米には粳米と糯米の二種がある。粳米は飯に炊

原料

き、又は、酒を造る原料とし、糯米は餅・飴・菓子等の原料に用ひる。米を搗くときに、できる碎米・糠も、そ

搗く

それ

れに用ひ方がある。

麥は米に次ぐ重要な穀物で、大麥・小麥・稗麥・燕麥等

の種類がある。大麥は炊いて食料とする外に、味

味噌  
醤油

噌・醤油等を造る原料とし、又、家畜の飼料ともする。

粉

いづれも

さうして、或る種類のものはビールの醸造じょうぞうに用ひられる。小麦は粉にして、麵包ばん・饅頭もう・索麵そうめん・菓子等を製し、稗麥は炊いて飯とする。燕麥は食用にし、又、家畜の飼料にも用ひる。

粟にも粳と糯がある。粳粟は飯に炊き、糯粟は餅や菓子等の原料とする。

黍にも粳と糯があつて、いづれも粉にして、餅を造る。

豆には種類が澤山ある。大豆だいず・小豆こあず・豌豆すきえん・蠶豆ごうそら・隱元いんげん豆等が重なるものである。此の中、大豆は一番用ひ

しぼる

煮たり  
炒つたり

方が多くて、味噌・醤油・豆腐・納豆等を造ることもて  
きるし、又、油をしぼることもできる。さうして、油  
を取つたあとの豆粕は、肥料として大切なもので  
ある。小豆は餡あんを製するに用ひ、又、米にまぜて、赤  
飯を炊く。其の他の豆は、煮たり炒つたりして食  
べる。

### 練習

でございます。……でございます。

であります。……であります。

一、盛んです。……でした。

である。……………であつた。

だ。……………だつた。

ございます。……………ございました。

二、大豆が  
あります。……………ありました。

ある。……………あつた。

いたします。……………いたしました。

三、飼料に  
します。……………しました。

する。……………した。

うございます。……………うございました。

四、多

い。……………かつた。

ます。……………ました。

五、用  
ひ

る。……た。

六 炒  
ります。……りました。  
る。……つた。

七 製  
します。……しました。  
する。……した。

#### 第四課 我が國の重要物産

頗る

繭

我が國は頗る物産に富んでゐる。物産の中には、  
天産物もあり、製造品せいぞうひんもある。又、輸出品として、大  
切なものもあれば、特産物として、評判の高いのもあ  
る。此等の物産中、殊に重要なものは、米・麥・茶・牛・繭・

生絲

生絲・銅・石炭・金・木綿絲・織物・マツチ・樟腦しょうのう等て、其の産額は年々多くなつて行くのである。今、其の産地と一年中の産額とを擧げてみる、次の通りである。

約

米は我が國のどこにでも産する。其の産額は約五千八百萬石で、其の中の凡そ八割は内地でこれ、あとの一割三分ぶほどは朝鮮、七分ほどは臺灣でこれるのである。麥は其の産額二千五百萬石の中、内地でできるのが八割四分で、其の外は皆朝鮮でできるのである。茶は、京都府の宇治うぢで一番よい

のができて、静岡縣しずおかで一番澤山たくさんできる。牛は二百十萬頭さうの中、内地のが半分以上、朝鮮のが其の残の五分の三餘り、臺灣のが略、五分の二の割合である。蘭の産額は凡そ三百五十萬石で、實に米に次ぐ重要物産である。全國諸處に産するが、産額の多いのは、長野ながの・群馬ぐんま・埼玉さいたま・福島ふくしま・愛知あい・山梨やまなし等の諸縣である。生絲も此等の諸縣で澤山製造され、其の價額は一億四千萬圓に達してゐる。朝鮮でも蘭はできるが、今では僅かに三萬石程である。銅・石炭・金等は、いづれも内地で澤山とれるが、金は朝鮮・臺灣から

も、少なからず出る。

到る處

織物には、絹の織物と木綿の織物とあつて、各一億圓以上の産出がある。そして、殆んど全國到る處でできるが、其の中、絹織物の産地として名高いのは、京都桐生<sup>きりゆう</sup>・足利<sup>あしひが</sup>・八王子<sup>やうじ</sup>・福井<sup>ふくい</sup>等である。

以上挙げた所の物産中で、輸出品として大切なものは、生絲・木綿絲・絹織物・木綿織物・銅茶・石炭・マツチ・樟腦・米・砂糖・花苳<sup>むぎわら</sup>・麥稈<sup>さなだ</sup>・眞田<sup>まいた</sup>等であるが、其の中、生絲・茶などは、殊に主要なものである。

陶器  
磁器

此の外、海外にまで名を知られてゐるのは、陶器・磁

漆器

細工

器・漆器などである。中にも、漆器は我が國特有の工藝品であつて、其の細工が頗る精巧であるから、外國で評判が高い。

我が國は、又、海産物に富んでゐる。これは輸出品として、重要なものである。

### 練習

左の問に答へなさい。

- (一) 我が國の物産中、殊に重要なものは、何々であるか。
- (二) 我が國特有の工藝品であつて、外國で評判の高いのは何か。

(三) 絹織物の産地として名高い處はどこか。

(四) 我が國の主要な輸出品は何か。

(五) 茶は、どこで一番よいのができて、どこで一番多くで  
きるか。

區別

## 第五課 實業

實業には色々區別があります。農業も實業であれば、商業も工業も實業です。其の他、林業・漁業・鑛業等いづれも皆實業です。此等の實業は、互に離れることのできない關係をもつてゐて、小にして

揃つて

わけ

反物

紡いだ

賣捌いたり

戻つて

は一人を富まし、大にしては一國を富ますものです。それだから、各種の實業が揃つて、よく發達して行けば、國の富も次第に殖えるわけです。

我々の着物にする木綿の反物は、木綿絲で織つたもので、其の木綿絲は、綿を紡いだものです。綿をこるために、綿の木を作るのは農業で、絲を紡いだり、反物を織つたりするのは、皆工業です。そして、其のでき上つた品物を、産地から送り出したり、賣捌いたりするのは、皆商業です。

も一つ前に戻つて考へてみると、綿の木を作る時

鋤 鋤

即ち

經て

工合

に使つた鋤・鋤などの農具は、森林から伐り出した木材と、鑛山から掘り出した鐵とで、造られたものですが、森林を造つたり、木材を伐り出したりするのは林業、鐵を掘り出すのは鑛業、此等のもので、鋤や鋤を造り上げるのは工業です。又、綿の木の肥料に用ひた干鰯<sup>ほいか</sup>は、はじめ、漁夫がこつたもので、それから、商人の手で賣られたものです。即ち、漁業から商業を經て、農業に使はれるやうになつたのです。

かういふ工合に、各種の實業は、互に離れることの

従事する

心懸け

できない關係をもつてゐます。ですから、實業に従事する者は、力を合はせて、國の富を殖すやうに心懸ければなりません。

### 練習

甲 君は學校を卒業してから、何をなさいますか。

乙 私は實業に従事する考です。

甲 實業にも色々ありますが、何をなさいますか。

乙 店を出して、農具を賣捌いて見ようと思ひます。

甲 それは、よい工合です。僕は鋤、鍬、其他の農具を造らうと思つてゐますから、それを君の店で、賣捌いて下

さいませんか。

乙 さういふわけなら、僕も十分骨を折つて、早く店を出  
すやうに、心懸けませう。

## 第六課 稻橋村いなはしの美風

可なり

程

併し

愛知縣岡崎おかざきといふのは、東海道鐵道の一驛で、可なり名高い町です。此の町から二十里程北の山の中に、稻橋いなはしといふ小さい村があります。交通も不便であるし、名所などありませんから、世間には知られて居りません。併し、此の村には、他に見られ

争

年が年中

一所懸命

閑

次第に

ぬ美風があるのです。

人が大勢ゐるこ、争の起り易いものですが、此の村ばかりはいつも平和で、一村は一家のやうに、人々が仲よくして、年が年中、暖かい春風が吹き渡つてゐるやうです。村全體がこんなふうですから、どの家もよく和合して、家庭の幸福を楽しみ、悪い遊をするものがありません。

本業としてゐる農業に、一所懸命、骨を折るのは言ふまでもなく、閑な時には他の仕事もしたり、村全體の産業にも盡力じんりよくしたりしますから、農事は次第

開けて

副業

めいく

に改良され、養蠶・製茶・造林の業も段々開けて、繩<sup>なわ</sup>・絢<sup>ない</sup>・草鞋<sup>わらじ</sup>・作<sup>つくりこも</sup>・菰<sup>あみ</sup>編などの副業も、いよく盛んになり、其の利益を一村に積つてみるゝ、實に大層な額になるさうです。

又、此の村の人々は相談して、明治十一年から、めい<sup>めい</sup>く<sup>く</sup>が、一日に一厘づつの貯金をしましたが、今は其の額一萬圓以上に達してゐるゝいふことです。そして、世界各國の貯金額を扇<sup>あふ</sup>に書いて、これを富<sup>ふ</sup>國<sup>こく</sup>扇<sup>せん</sup>といつて、家々の壁に懸け、貯金を奨<sup>しょう</sup>勵<sup>れい</sup>してゐます。

尙ほ

計つて

尙ほ一層感心なことは、此の村の人々の、公共心に富んでゐることです。明治三十七年、日露戦争の初に、政府が公債を全國に募集した時、稻橋村は一番に之に應じたばかりでなく、他の村にも金を貸して、便利を計つてやつたさうです。

かういふ美風のできたのは、一つには人々の心懸がよかつたのと、又、一つには此の村の老農古橋氏父子の盡力が少なくなかつたからださうです。

### 練習

一、此の學校には一つの美風がある——といふことです。

二、生徒は貯金をした

—さうです。

こいふことです。

さうです。

三、村の人は皆農業に骨を折る

こいふことです。

さうです。

四、左の問に答へなさい。

(一) ぐういふ事が稲橋村の美風ですか。

(二) 稲橋村には、ごんな副業が行はれてゐますか。

(三) 稲橋村の富國扇とは、ぐういふものですか。

(四) 稲橋村の美風は、ぐうして、できましたか。

第七課 我ガ國ノ風景

我ガ國ハ海ノ國デアル、又、山ノ國デアル。ソレデ、  
風景ノ好イ處が多い。ソノ好イトイフ中ニモ色  
々アル。或ルモノハ華麗、或ルモノハ優美、或ルモ  
ノハ壯大デアル。

櫻

登ッテ

見渡ス

峯

有様

何トモイヘ  
ヌ

華麗ナ景色ハ、櫻デ名高イ吉野山ヨリ好イ處ハナ  
カラウ。春花ノ盛リノ頃、此ノ山ニ登ッテ、一目千  
本ノアタリカラ見渡スト、峯モ谷モ、一面ニ薄紅ノ  
雲ニ包マレテキル有様、何トモイヘ又美シサデア  
ル。ドンナ人デモ、此ノ景色ヲ見タラ、ソノ華麗ナ

ノチ賞メヌモノハアルマイ。

風景ノ優美ナノハ、瀬戸内海ガ第一デアラウ。夏

ノ初、船ノ上カラ眺メルト、油ノヤウナ海ノ面ヲ、白

滑ツテ

イ帆ガ滑ツテ行ク。小サイ島ガ、右ニ左ニ、見エタ

リ隠レタリスル。遠クニハ、黛ノヤウナ連山、近ク

滴ル  
マルデ

ニハ翠ノ滴ルヤウナ松林、白イ砂ニ青イ波、マルデ

繪ノヤウデ、ソレヲ見テキルト、自分モ繪ノ中ノ人

ニナツタヤウナ氣持ガスル。

ソノ壯大ナモノヲ舉ゲテミルト、萬丈ノ烟ガ大空

ニ立チノボル阿蘇ノ火山、一萬二千峰ト呼バレル



金剛山、天カラ大江ノ  
 落チ來ルヤウナ那智  
 ノ瀧ナドデアル。  
 此等ノ華麗・優美・壯大  
 ナ風景チ一ツニ集メ  
 テ、我が國民ノ愛スル  
 所トナツテキルノハ、  
 富士山デアル。チヨ  
 ウド、白扇チ倒サマニ  
 懸ケタヤウニ、東海ノ

聳エ

氣高<sup>タカ</sup>イ  
現レ

天ニ聳エテ<sup>スガタ</sup>キル姿ハ、口ニモ言ヘズ、筆ニモ書ケヌ  
ホド氣高イ。我が國ノ姿ハ此ノ名山ニ現レテキ  
ルノデア<sup>ス</sup>アル。

### 練習

左ノ文中、――ノ附ケテアル處ヲ敬語ニ改メナサイ。

- (一) 我が國ハ海ノ國デア<sup>ス</sup>アル。
- (二) 風景ノ好イ處ガ多イ。
- (三) 白イ帆ガ滑ツテ行ク。
- (四) 繪ノ中ノ人ニナツタヤウナ氣持ガスル。
- (五) 富士山ガ天ニ聳エテキル。

第八課 日誌にっし

役に立つ

日誌といふものは、ちよつと考へるこゝ、書くのに手間が大層かゝるばかりで、別に面白くもなく、又、これといふ利益もないやうである。併し、よく考へるこゝ、毎日これを書くといふこゝからして物事を綿密にする習慣を養ふこゝができ、又、其の書いてあるこゝが後に大層役に立つこゝもあるのだから、やはり利益のあるものに違ない。殊に、古い日誌を取り出して讀むこゝ、過ぎた年の今月今日には、自分がかういふ事をしたのである、又、何月何日に

細かに

餘計に

出來事

は、家内にこれ／＼の事があつた、世間にはかういふ事が起つたなど、いふことがわかつて、何ともいへぬ愉快ゆいぐいを感じるものである。

日誌は細かに書く方が、よいには違ない。けれども、さうすると餘計に手間がかかるから、長い月日の間には書き落すことがある。それで、日誌には天氣・寒暖・音信・訪問ほうもん又は其の日の出來事を簡單に書きつけて、毎日續けるやうにした方がよい。

文章ぶんしやうは文語體でも口語體でもよい。或る學校の生徒が書いた日誌の一例いちれいを舉げると、次のやうな

ものである。

○二月十一日。晴、風、昨日程寒カラズ。

今日ハ紀元節ナリ。午前十時學校ニ行き、式ニ列  
ス。夜、父上ハ祝宴<sup>シュウケン</sup>ヲ設ケ、客ヲ招カル。弟二人ハ  
紀元節ノ唱歌ヲ歌フ。其ノ次ニ、小サキ妹モ、僕等  
トイツシヨニ、君ガ代<sup>イ</sup>ヲ歌フ。

○二月十二日。朝曇リ、午後雪。

今朝ハイツモヨリ少シ遅ク起キタリ。イツモノ  
時間通り學校へ行ク。晝頃ヨリ雪盛ンニ降り出  
シ、暫クノ間ニ一二寸積ル。午後ノ體操時間ニ、僕

指圖  
搔ク

濟マシ

未ダ

裏

ノ級ハ先生ノ指圖ニテ、學校ノ庭ノ雪ヲ搔ク。夜  
疲レタレバ、復習<sup>フクシユウ</sup>ヲ早ク濟マシテ眠ル。

○二月十三日。晴、雪未ダ消エズ。

今日ハ日曜ナリ。東京ノ兄上ニ手紙ヲ出ス。其  
ノ中ニ、紀元節ノ晩ノコト、昨日ノ雪搔ノコトヲ知  
ラス。午後、雞小屋ヲ掃除シタル後、裏ノ山ニ行キ  
テ雀ヲトル。

### 練習

一、左ノ文中、一ノ附ケテアル處ヲ口語ニ改メナサイ。

(一) 二月十一日ハ紀元節ナリ。

(二) 式ニ列ス。

(三) 紀元節ノ唱歌ヲ歌フ。

(四) 先生ノ指圖ニテ雪搔ヲナス。

(五) 夜早ク眠ル。

(六) 雪未ダ消エズ。

(七) 裏ノ山ニ行キテ雀ヲトル。

## 二、文語ト口語。

行ク。

行ク。

行キマス。

(一)

行キタリ。

行ツタ。

行キマシタ。

行カン。

行カウ。

行キマセウ。

歌フ。

歌フ。

歌ヒマス。

(二) 歌ヒタリ。

歌ツタ。

歌ヒマシタ。

歌ハン。

歌ハ、ウ。

歌ヒマセウ。

ナス。

スル。

シマス。

(三)

ナシタリ。

シタ。

シマシタ。

ナサン。

シヨウ。

シマセウ。

第九課 爲スベキ事ハスグニ爲セ

人ハヨク多忙ト言フ。昨日爲スベキコトヲ今日

爲シ、今日爲スベキコトヲ明日爲ス。故ニ、仕事ニ

追ハレテ、常ニ多忙ナルヲ感ズルナリ。

多忙  
爲ス  
故

進  
ン  
デ

整  
ヒ  
テ

落  
着  
キ

要  
ス  
ル  
ニ

昨日爲スベキコトヲ昨日爲シ、今日爲スベキコト  
ヲ今日爲シ、明日爲スベキコトヲ明日爲サバ、決シ  
テ仕事ニ追ハル、コトナシ。

若シ進ンデ、明日爲サント思フコトヲ今日爲シ、後  
ニ爲サント思フコトヲ今爲サバ、何事モヨク整ヒ  
テ、心落着キ、少シモ多忙ナルヲ感ゼザルベシ。

要スルニ、多忙ナルハ、爲スベキ事ヲ、爲スベキ時ニ、  
爲サザルガ故ナリ。注意スベキコトナラズヤ。

### 練習

一、左ノ文中、―ヲ附ケタル處ヲ口語ニ改メヨ

(一) 一人ハヨク多忙ト言フ。

(二) 故ニ仕事ニ追ハレテ常ニ多忙ナリ。

(三) 明日爲サン。

二、左ノ文中、一ヲ附ケタル處ヲ文語ニ改メヨ。

(一) 決シテ仕事ニ追ハレルコトガナイ。

(二) 明日シヨウト思フコトヲ今日スル。

(三) 少シモ多忙ヲ感ジナイダラウ。

(四) 注意スベキ事デハナイカ。

第十課 職業には貴賤きせんの別がない

百姓  
是非  
さへ  
構はぬ  
斷  
こころ

或る村に大きい農家があつた。主人は金重榮きんじゆうえいといつて、信用もあり評判もよい人であつた。

其の長男の秉然へいぜんといふのは、普通學校を卒業したものであるが、百姓などはつまらぬ。是非、官吏になりたい。官吏でさへあれば、低いものでも構はぬ。と思ひ込んで、或る日、父母に一言いちごんの斷もなく、家を飛び出して、京城にゐる伯父の金富榮を尋ねて行つた。

金富榮は或る役所の官吏である。秉然が家を飛び出して來たことを聞いて、大いに驚き、次のやう

に、其の不心得なことを熱心に言ひ聞かせた。

「世の中には、官吏や學者をよいものとして、實業家や勞働者をつまらぬものと思ふ人が、ないでもないが、これは大變間違つた考である。若し世の中に、官吏や學者ばかりゐて、實業家や勞働者がゐなかつたら、どうであらう。世の中は一日も立ち行くまい。『世の中は相持。』といふことがある。官吏・學者・實業家・勞働者等、皆それらの職分があり、各、其の職分を盡くして、始めて互に立ち行くのである。

賤しい

精出し

だから、人の職業は、あれがよいとか、これがつま  
らぬとか、いふわけのものではない。百姓でも、  
官吏より賤しいと、きまつたものではない。貴  
賤は唯、人物の善いか悪いかにあるのである。  
それにわけもなく、百姓は賤しいから嫌ひだこ  
いつて、家出するやうでは、官吏になつても仕方  
がない。

おまへは、常に品行ひんこうに注意し、家業に精出して、父  
上が造られた家産を殖し、家の幸福を進め、村の  
繁昌を計るやうにするがよい。それがおまへ

詫

お蔭

全く

守つて

のためであり、又、お國のためである。わしが、父上にお詫をしてやるからすぐ歸れ。」

秉然は、伯父が詫をしてくれたお蔭で、家に歸ることができた。

其の後、十數年を経て、秉然が家長となつた頃には、村内第一の農家となつて、村民の敬愛けいあいを一身に集めた。是れ全く、伯父に言ひ聞かされたことをよく守つて、其の上、村民一般の利益を計つたからである。

練習

一、或る處に大きい家があつた。——或る處に大いなる家ありたり。

二、遠方の伯父を尋ねて行つた。——遠方の伯父を尋ね行きたり。

三、百姓は決して官吏より賤しいものではない。——百姓は決して官吏より賤しきものにあらず。

四、村の繁昌を計るやうにするがよい。——村の繁昌を計るやうにすべし。

五、村民一般の利益を計らう。——村民一般の利益を計らん。

一言ひ聞かされる。

言ひ聞かせらる。

六、

言ひ聞かされた。

言ひ聞かせられたり。

言ひ聞かされるだらう。

言ひ聞かせらるゝならん。

敬愛される。

敬愛せらる。

七、

敬愛された。

敬愛せられたり。

敬愛されるだらう。

敬愛せらるゝならん。

八、

尋ねられた。

尋ねられたり。

尋ねられるだらう。

尋ねらるゝならん。

第十一課

養雞ようけい

或る處に李順明しりやうめいといふ少年しょうねんあり。初め二三羽の

與へ

孵す

雛  
育て

應じて

抱かしむ  
いだか

雞を飼ひしが、其の數次第に殖えて、後には十羽程  
となりたり。

父は順明のため、新らしき雞小屋を造り與へ、又、順  
明に養雞の心得を、次の如く説き聞かせたり。

「養雞に必要なること三つあり。第一は卵を孵  
すこと、第二は雛の育て方、第三は成長したる雞  
の飼ひ方、是れなり。

卵を孵すには、其の大小に應じて、七八個より十  
二三個の良き卵を、一羽の母雞けいに抱かしむ。母  
雞には軟かき食物と新鮮なる水とを與へ、毎日

かくて

ともに

濕氣しつり

餌みづか 自ら

然れども

時を定めて、すば巢箱より出し、運動をなさしむ。かくて、凡そ二十一日めに、雛は生まるべし。雛を育つるには、生まれし時より三十時間程を経て、煮たる碎米などを與へ、次第に穀物・野菜・蟲等を喰はせ、母雞とともに運動せしむべし。雛は寒さと濕氣しつりに感じ易く、蛇・猫・鰻・鳶いたち等にころれ易きものなれば、注意せざるべからず。成長したる雛を飼ふには、さく柵飼と放飼はなしかいとあり。放飼にするときは、雛自ら餌を捜す故、飼料を多く與ふる必要なかるべし。然れども、柵飼をす

貝殻

遂に

るには、自然、飼料も多くし、殊に野菜・蟲等を與ふ  
る必要あり。又、常に新鮮なる水を與へ、時々貝  
殻又は卵の殻等を細かく碎きて喰はしめ、砂浴しゃよく  
を爲すべき場所を設くべし。雞小屋は毎日よ  
く掃除して、羽蟲はむしなどのできざるやう注意せよ。  
其の後、順明はよく父の教を守りて、熱心に雞を飼  
ひ、次第に多くの利益を得て、遂に立派なる養雞家  
となれり。

### 練習

#### 一、文語と口語

- (一) 然れども。——けれども。  
(二) 遂に。——ごうく。  
(三) かくて。——かうして。  
(四) 自ら。——自分で。  
(五) 新鮮なる。——新鮮な。  
(六) 與ふ。——遣る。  
(七) 抱かしむ。——抱<sup>だ</sup>かせる。  
(八) 運動せしむ。——運動させる。  
(九) 喰はしむ。——喰はせる。  
(一〇) 聞かせたり。——聞かせた。  
(二) 生まるべし。——生まれませう。

(三) なるべし。――なからう。

(三) せざるべからず。――しなければならん。

二、左の文中、――を附けたる處を文語に改めよ。

(一) 養雞の心得を説き聞かせた。

(二) 雞に五つ六つの卵を抱かせる。

(三) かうして雛は生まれませう。

(四) 軟かいものを喰はせる。

(五) 新鮮な水を遣る。

(六) 時々運動させる。

(七) とう／＼雛は猫にこられた。

(八) 注意しなければならん。

(九) けれども、成長すると、自分で餌を捜す。

(一〇) 養雞ほど面白いことはなからう。

## 第十二課 安着あんちやくの通知

金大植は今年簡易かんい農業學校を卒業した。卒業式の翌日、先生がたの處へ、一々お禮に廻つて、それから、喜んで歸郷きききやうした。歸ると、すぐ、安着を知らせるために、校長へ手紙を出した。

下され  
首尾よく  
致し候  
此の上もな  
み

謹啓きんけい私事わじ在學中は御親切に御教育下され御蔭を以て首尾よく卒業致し候こと此の上もなき

仕合しあわせ  
存じ奉り

かたぐ  
申上げ度  
斯くの如く  
御座候

致居候處  
由  
此度

仕合に存じ奉り候昨夕歸郷致し候處兩親も大いに喜び諸先生の御高恩を深く感謝致し居り候先づは御禮かたぐ安着の御通知申上げ度斯くの如くに御座候敬具けいぐ

四月十五日

金大植

吉田勤一先生よしだきんいち

吉田校長はすぐ返事を書いて、大植に送られた。

御手紙拜見はいけん致候御郷里までは遠方のここ故心配致居候處御安着の由御通知被下安心致候此度は優等ゆうとうの御卒業なれば御兩親も御満足のこ

務め

ここ存候此の後も在學中と同様の御精神にて  
家業に出精し學校にて習はれたる所を應用し  
て十分農事の改良に務められ度希望致候不<sub>ふ</sub>一<sub>いつ</sub>

四月二十日

吉田勤一

金大植殿

練習

一、此の上もなき仕合に存じ奉り候。——此の上もない仕  
合に存じます。

二、御通知申上げ候。——お知らせ申上げます。

三、御満足のここに存じ候。——御満足でせうに存じます。

四、ながく在學致し居り候處此度首尾よく卒業致し候。  
——ながい間在學してゐましたが此度首尾よく卒業致しました。

五、是れ全く先生の御蔭に御座候。——これは全く先生の  
お蔭でございます。

六、御安着の由安心致し候。——御安着なさつたさうで安心致しました。

七、(一)致しました。——致し候。——致候。

(二)致しませう。——致すべく候。——可致候。

(三)下さい。——下され度候。——被下度候。

(四)なさつて下さい。——成し下され度候。——被成下度

候。

(五) なさい。——成さるべく候。——可被成候。

(六) ありがたう存じます。——有り難く存じ奉り候。——

難有奉存候。

(七) あります。——之れ有り候。——有之候。

(八) ありません。——之れ無く候。——無之候。

第十三課 廢物<sup>ハエブツ</sup>ノ利用

紙屑・絲屑・古綿<sup>アキ</sup>・空瓶<sup>ビン</sup>・石油<sup>セキユ</sup>罐<sup>カン</sup>等ノ如キ廢物ハ其ノ効

用ノ大ナラザルコト勿論ナリ。然レドモ、常ニ注

勿論

屑

意シテコレヲ利用スル時ハ、少ナカラザル利益アルモノナリ。

或ル家ニ老母アリ。閑々ニハ、不用トナリタル紙

コヨリ

ニテコヨリヲ造リ、更ニソレヲヨリ合ハセテ細キ

紐

紐トナスヲ常トセリ。或ル日、紐ノ入用起リテ、家

日頃

ノ人々ソココ、ト捜シ廻リタルガ、其ノ時、老母ハ、

コレヲ用ヒヨotte、日頃、造リ置キシ紙ノ細紐ヲ取

出シタレバ、人々皆其ノ用意ノ深キニ驚キタリ。

繋ギテ

又、或ル家ノ主婦ハ、常ニ絲屑ヲ集メ、コレヲ繋ギテ

アマタ

大イナル毬マリヲアマタ造レリ。家ノ人々何ヲスル

怪シミ

云フ

甚ダ  
モハヤ

其ノマ、

カト怪シミキタルガ、其ノ後、主婦ハコレニテ反物  
ヲ織リ、家人ニ見セタレバ、皆其ノ心懸ニ感ジタリ  
ト云フ。

紙ハ甚ダ効用ノ多キモノナルガ、其ノ中ニハ、モハ  
ヤ用ノナキ檻ガ樓ロナドヨリ造ラレタルモノアリ。  
是レ即チ、廢物ニテ他ノ物ヲ造リタルナリ。此ノ  
外、石油罐エンヲ其ノマ、水ヲ入ル、ニ用ヒ、又ハ、コレ  
ヲ煙突トツ其ノ他ノ物ニ造ルモ、皆一種ノ廢物利用ナ  
リ。

凡ソ何物ニテモ、大抵利用ノ方法アルモノナリ。

タトヒ

諺  
クサレナリ  
腐繩

タトヒ今日用ナキ廢物ニテモ、明日ニナリテ、其ノ  
利用ノ方法ヲ見出スコトアラン。諺ニ「腐繩モ用  
ニ立ツ」トイフコトアリ。故ニ、些<sup>サ</sup>細<sup>サイ</sup>ノ廢物ヲモ決  
シテ粗<sup>ソリヤク</sup>畧ニセズ、コレヲ利用スルヤウ考ヘザルベ  
カラズ。

### 練習

左ノ文ヲ口語體ニ改メヨ。

- (一) 紙屑・空瓶等ハ廢物ナリ。
- (二) 空瓶ヲ賣リテ得タル金ヲ貯ヘタリ。
- (三) 人々ヲ驚カセリ。

(附録五及  
び七参照)

ところが

(四) 大イナル毬ヲアマタ造レリ。

(五) 何物ニテモ利用スルヤウ考ヘザルベカラズ。

(六) 見出スコトアラン。

### 第十四課 組合の利益

滋賀縣しががに葛川かつらがわといふ村がある。山が多くて、畠が

少ないから、村のものは大抵炭すみ焼や木挽こびきを職業と

してゐる。ところが、唯伐るばかりで、植ゑるこ

をしないから、木は次第に減つて行く。又、炭の賣

捌や、日用品の買入等についても、其の方法を考へ

始終

暮し向

さつぱり

非常に

奮發

組合  
結果

ないから、始終損ばかりしてゐる。後には、其の日の暮し向にも困つて來たから、悪い炭を高く賣つて、一時の利益を得ようとする。それがため、さつぱり世間の信用がなくなつて、誰れも此の村の炭を買はないやうになり、非常に哀れな有様になつた。

これではいけないと、村の人々が奮發して、明治三十七年九月に、製炭改良組合を設けたが、其の結果が頗る好いので、村民は始めて組合の利益を知り、翌年三月、又、組合を設けて、村の生產品の共同賣捌

こ、日用品の共同買入を取扱ふやうにした。

それから、炭の品質も良くなり、信用も元のやうになり、前よりも一層よく賣れるやうになつて來た。其の上、日用品なども、大變安く買入れることが、できるやうになつたから、村の人々の暮しも次第に樂になつて來た。

樂に

融通

其の後、又、信用組合をも置いて、産業に必要な資金を融通する方法を立てた。そればかりでなく、此の組合の力で、風俗までも、自然に改るやうになつたと、いふことである。

## 練習

一、左の文中、―の附けてある處を漢字に改めなさい。

(一) 家業に精出すこ、くらしむきも自然こらくになります。

(二) くみあひには種類少なからず。

(三) 馬に乗らうと思つたところが、一匹もゐないので、ひじょうに困つた。

(四) 家にありて、しじゅう書物を讀みゐたり。

(五) 大いにふんばつして金持となりたり。

(六) ごういふけつかであるか、さつぱり、わからない。

(七) 資金をゆうづうする方法が立つてゐない。

(附録八及  
九參照)

票 込 拂		票 査 監	
名 所 人 拂 氏 住 込	一 金 壹 圓 四 拾 參 錢 也	名 人 拂 氏 込	一 金
全羅南道濟州郡中面 二徒里花院洞四統三戸 金大植	東京五〇〇番 東京農園		
口座所管廳目附印	所 局 付 受 印 附 日	口 番 口 番 號 座 印	日 所 局 付 受 印 附 日

票 査 監	
名 人 拂 氏 込	一 金
口 番 口 番 號 座 印	日 所 局 付 受 印 附 日

# 第十五課

種子の注文

金大植は、簡易農

業學校を卒業し

た後、學校で習つ

二、前に舉げた文  
は、どれが文語  
體で、どれが口  
語體であるか。

實地  
やつて

早速  
まうそく

拂込通知票			
<small>印を付しある部は拂込人にて記載せらるし</small> 名所人拂 氏住込 * 全羅南道濟州郡中面 * 二徒里花院洞四統三戸 金大植 白屋所管廳日附印 局通府管總鮮朝	* 入金壹圓四拾參錢也	<small>和號</small> <small>加入者</small> <small>氏名</small> * 東京農園 <small>所印</small> <small>局附</small> <small>日</small>	<small>和號</small> <small>加入者</small> <small>氏名</small> * 東京五。番 <small>所印</small> <small>局附</small> <small>日</small>

受領票			
<small>和號</small> <small>加入者</small> <small>氏名</small> 一金 <small>所印</small> <small>局附</small> <small>日</small>	<small>和號</small> <small>加入者</small> <small>氏名</small> 一金 <small>所印</small> <small>局附</small> <small>日</small>	<small>和號</small> <small>加入者</small> <small>氏名</small> 一金 <small>所印</small> <small>局附</small> <small>日</small>	<small>和號</small> <small>加入者</small> <small>氏名</small> 一金 <small>所印</small> <small>局附</small> <small>日</small>

たことを、自分で  
實地にやつて見  
たいと思つた。  
或る日其の事を  
父に話すと、父は  
大層喜んで、一反  
歩の畠を使用す  
ることを許した  
から、早速、東京農  
園に、五六種の作

振替貯金

そこで

貰ひ

但し  
代金

通信文記載欄

左記の種子早速御送り下され度候但し代金は  
貴園營業目錄にて計算致候  
一萬圓 三々 代金參拾錢  
一節成胡瓜 四々 代金貳拾錢  
一長茄 三々 代金參拾錢  
一山東白菜 三々 代金拾五錢  
一莢豌豆 七合 代金四拾錢  
右五種代金壹圓四拾參錢  
二月二十日 金大植  
東京農園御中

れに必要な事を書き入れ、金を添へて差出した。  
其の用紙の裏の通信文記載欄には、かう書いて置  
いた。

左記の種子早速御送り下され度候但し代金は

物の種子を、振替  
貯金で注文する  
ここにした。そ  
こで、郵便局へ行  
つて、振替貯金拂  
込用紙を貰ひ、そ

貴園營業目錄にて計算致候

一、萵苣ちさ

三勺じやく

代金參拾錢

一、節成胡瓜ふしなりきうり

四勺しやく

代金貳拾八錢

一、大長茄おうながなすび

三勺

代金參拾錢

一、山東白菜さんとうはくさい

三勺

代金拾五錢

一、大莢豌豆おうさや

七合

代金四拾錢

右五種代金壹圓四拾參錢

二月二十日

金大植

東京農園御中

するこ、十日ほどたつてから返事が來た。

毎度  
御引立

間  
左様

御用命

奉願候

拜復<sup>はいふく</sup>毎度御引立被下難有奉存候御注文の種子  
五品本日郵送致候間左様御承知被成下度代金  
壹圓四拾參錢正に受取申候尙ほ今後も御用命  
の程奉願候頓首<sup>さんしゅ</sup>

二月二十五日

東京農園

金大植殿

練習

- 一、毎度御引立被下難有存候。——毎度お引立て下さいまして、ありがたう存じます。
- 二、左様御承知被成下度候。——左様御承知なさつて下さ

い。

三、正に受取申候。——間違なく受取りました。

四、御用命の程奉願候。——御用をお命じ下さるやうお願ひ申上げます。

五、早速御返事可致候。——すぐお返事いたしませう。

### 第十六課 養蠶

蠶には春蠶はるこ・夏蠶なつこ・秋蠶あきこの三種がある。春蠶は五月の初から中頃、夏蠶は六月から七月の初、秋蠶は七月の末から八月中旬までの間に孵る。

半ば

一切  
準備

間に合ふ  
見はからひ

種紙  
擴げ

春の半ばになつて、桑の芽が出て來るこ、春蠶の卵は自然に孵るものであるが、蠶の發育が揃はないこ、成績が好くないから、催青室さいせいしつを設けて、一切の準備を整へ置き、桑の葉も、十分、間に合ふ頃を見はからひ、其の室内の溫度などをよくして、そこで蠶の卵を孵らせるのである。

孵つたまゝの蠶を、蟻蠶きさん又は毛蠶けごといふ。蟻蠶を種紙から掃き下おろして、蠶座に擴げ、桑の葉を小さく切つて食べさせる。蟻蠶は桑の葉を喰つて成長すると、黒かつた體が次第に白くなる。六七日た

つと、何も食べないで體を休め、三十時間程、死んだやうになつて動かない。これを眠かえ又は休やすみといふ。やがて皮を脱いで、また、桑の葉を喰ひ始める。これを起おきといふ。蟻蠶が成長して、一度皮を脱いでしまふまでを一齡れいといひ、續いて二眠・三眠・四眠して、二齡・三齡・四齡・五齡となる。

一・二齡の蠶には、桑の葉を小さく切つて喰はせるが、五齡の頃には、大抵、大きい葉のまゝ、食べさせるのである。又、一日の間に桑の葉をやる度數は、蠶の小さい時は多くし、大きくなればなるほど、少な

分量

加減

移し

くする。若し一度にやる分量が少ないと、蠶の發育がよくないし、多過ぎると病氣になるから、よく其の加減に注意しなければならん。又、蠶座の蠶糞や、食べ残しの桑の葉を掃除したり、蠶座が狭い時、蠶を他の蠶座に移したりして、病氣にならないやうに、しなければならん。かうして、十分成長すると、蠶の體は段々半透明はんとうめいになつて、口から絲をはくやうになる。これを熟蠶じゅくさんといふ。そこで、これを簇まぶしに上げると、蠶は繭を作つて、其の中で蛹さなぎになる。

收める

たいした

春蠶が孵つてから繭を作るまで、三十五日ほどかゝる。それから、凡そ三週間たつと、蛾がとなり、繭を破つて外へ出る。故に、繭から生絲を製するには、繭を收めるにすぐに、蛹を殺して置かねばならん。夏蠶と秋蠶の飼ひ方も、春蠶のこ、たいした違はない。たゞ温度が高いから、蠶の發育が早くて、孵つてから繭を作るまでの日數が少ないだけである。朝鮮在來の蠶は三眠で上簇じやうぞくする。體が小さくて不揃であり、繭の品質も悪くて、絲の分量も少ない。内地の蠶は體が大きくて、よく揃つてゐる、そして、

四眠で上簇する。其の繭は品質が良くて、絲の分量も大層多い。それだから、これを飼へば、少なからぬ利益を得ることができる。

傍

兎に角

養蠶は、本業の傍、副業としてするのがよいので、簡易にすることもできる。其の方法は、養蠶のころをよく知つてゐる人から習ふのが一番よい。兎に角、室内を清潔にし、空氣の流通を良くし、溫度を適當にし、桑の遣り方を加減することは、殊に注意すべき點である。

練習

一、左の間に筆答をなさい。

(一) 蠶にはいくつ種類があるか、其の名を書いてもらなさい。

(二) 蠶の卵を孵らせる室を何といひますか。

(三) 孵つたまゝの蠶を何といひますか。

(四) 成長した蠶を何といひますか。

二、左の間に口答をなさい。

(一) 蠶の眠又は休といふのは、どういふことですか。

(二) 蠶の起といふのは、どういふことですか。

(三) 一二齡の蠶には、どんな桑の葉をやりますか。

(四) 成長した蠶には、どんな桑の葉をやりますか。

(五) 繭は、どんなものですか。

(六) 蛹は、どんなものですか。

(附録十一)  
参照

### 第十七課 桑の栽培

内地では蠶業が盛んで、一箇年の繭の産額は、三百五十萬石程ある。これは、蠶業に従事する者が、よく桑の栽培を務め、養蠶の方法を研究して、改良進歩を圖つてゐる結果である。

桑は、大抵、どこにでも栽培されるが、根が深く地中に伸びる性質のものであるから、土が深くて水の

麓

適し

都合

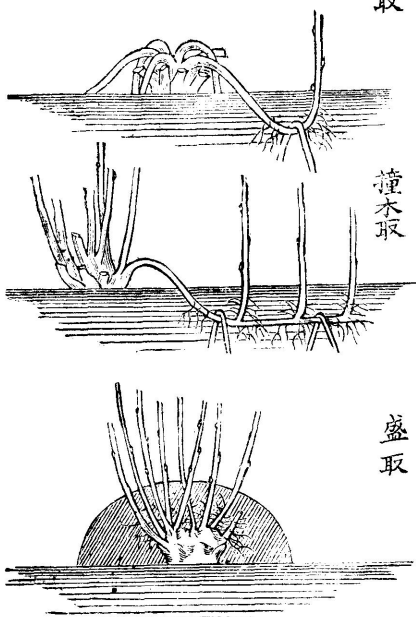
たまらない土地がよい。川の岸又は山の麓にある肥沃の砂質壤土・礫質壤土には、一番良い桑ができる。朝鮮は、地味も氣候も、一般に桑の栽培に適してゐるから、養蠶をするには都合がよいのである。

桑には、早く芽の出るのもあり、遅く出るのもある。それで、これを早生・中生・晩生の三種に分ける。早生種は小さい蠶を養ふに用ひ、中生種は少し大きくなつた蠶に與へ、晩生種は十分成長した蠶に喰はせるのであるから、桑畠を作る時には、初に此等

定め

三種の割合を定めて植ゑねばならん。其の割合は、凡そ早生種二分、中生種五分、晩生種三分とするがよい。

傘取



撞木取

盛取

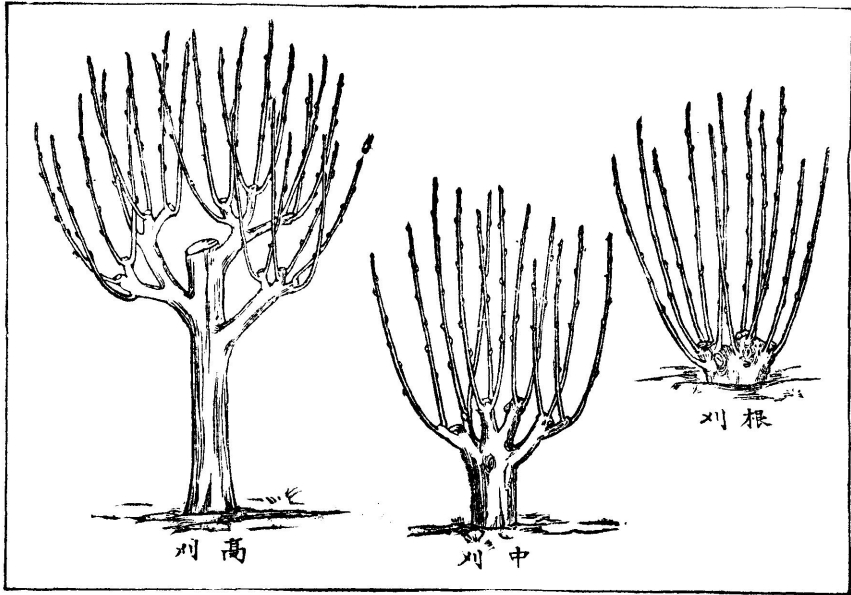
たやすい

番たやすいのは取木法である。撞木取と盛取の別がある。

桑を殖すには、實播・挿木・取木・接木等の方法がある。其の中、一番廣く行はれるのが接木法で、一取木法には、傘取

仕立てる

施し



此等の方法で出来た苗は、秋の末頃、葉の落ちた後、又は、春の初頃、芽の出る前に、畠に移し植ゑて、これを根刈・中刈・高刈にして仕立てる。植ゑた後は、よく耕して肥料を施し、又、常に病氣になつたり蟲がついたりせぬやうに、注意しなければ

ならん。

要するに、桑の栽培も「習ふより慣れよ。」といふ諺の通り、話を多く聞くより、自分で實地にやつて見る方が、早くわかつてよいのである。これは桑の栽培ばかりでなく、一切の農事が、さうであるから、農業をやらうと思ふものは、此の諺を忘れないやうに、しなければならん。

### 練習

左の文中、―を附けたる處を文語に改めよ。

一、桑を栽培するには色々の方法がある。

貧シ  
小作  
漸ク

二、早生種二分、中生種五分、晩生種三分の割合とする。

三、此の地方には桑が多い。

四、蟲のつかぬやう、注意しなければならん。

五、澤山の桑を仕立てた。

六、養蠶をするに都合がよい。

### 第十八課 老農中村直三

中村直三八、今ヨリ九十餘年前、奈良縣山邊郡永原村ニ生マレタリ。家モト貧シカリシカバ、小作ノ傍、其ノ村ノ夜番ヲ務メテ漸ク世ヲ渡レリ。然レ

勵ミ  
興サン

怠ル

粃種<sup>シユウカク</sup>

分配

普及

ドモ、直三八子供ノ時ヨリ農業ヲ勵ミ、家ヲ興サン  
コトヲ心懸ケ、常ニ農事ノ改良ニ注意シテ、少シモ  
怠ルコトナカリキ。

直三四十五歳ノ時、稻ノ良種ヲ得テ試作シタルニ、  
收穫甚ダ多カリシカバ、其ノ粃種五十餘石ヲ郡内  
ノ各村ニ分チ、進ンデ附近ノ諸郡ニモ分配シテ、其  
ノ普及ヲ圖レリ。カ、ル間ニ、直三ノ名ハ次第ニ  
遠近ニ聞エ、老農トシテ大イニ尊重セララル、ニ至  
レリ。其ノ頃、官廳ニテ直三ヲ農業教師ニ用ヒン  
トシタルニ、直三八、我が村ノ農事尙ホ改良ヲ要ス

辭シ  
專ラ

授ケ

ルコト多ケレバトテコレヲ辭シ、專ラ永原村ノタ  
メニ力ヲ盡クシタリ。

明治十年、内國勸業博覽會ノ始メテ東京ニ開カル  
、ヤ、直三八稻ノ良種ヲ出品セシガ、天皇ノ御目  
ニトマリ、同會ヨリ賞牌シヨウハイヲ授ケラレタリ。

其ノ後、明治十四年ノ勸業博覽會ニ、直三八二十餘  
年來苦心シテ試作セル七百餘ノ粃種及ビ二十餘  
ノ棉種ヲ出品セシニ、イヅレモ優良ノモノナリシ  
カバ、同會ヨリ有功賞牌ヲ授ケラレタリ。

翌年、東京ニ米・麥・大豆・煙草・菜種等ノ共進會開カレ

忝ウシ

於テ

懇ニ

依頼

事柄

配布

シ時、マタ粃種ヲ出品セシガ、此ノ時モ、上覽ヲ忝ウシ、御前<sup>ゴゼン</sup>ニ於テ特別名譽<sup>メイヨ</sup>賞牌及ビ金百圓ヲ賜ハレリ。直三<sup>カンキユウ</sup>感泣シテ拜受シ、歸郷ノ後、其ノ金ヲ以テ、古來農業ニ功勞アリシ人々ノタメ、懇ニ祭ヲ行ヒタリ。

直三八諸方ヨリノ依頼ニ應ジテ、農事ノ改良ニ力ヲ盡クシ、到ル處ニ功績ヲ舉ゲタリ。又、農家ノ心得トナルベキ事柄ヲ自費ニテ一枚摺<sup>ズリ</sup>トナシ、之ヲ世間ニ配布シタルコト數十回ニ及ベリ。斯クノ如ク感ズベキ行甚ダ多カリシガ、明治十五年八月

六十三歳ニテ世ヲ終レリ。

練習

一、學校ハ明日ヨリ始ル。——學校ハ明日カラ始ル。  
二、京城ヨリ仁川ヘ行ク。——京城カラ仁川ヘ行ク。  
三、此ノ村ハ彼ノ村ヨリ大ナリ。——此ノ村ハ彼ノ村ヨリ  
大キイ。

四、父母ノ命ニヨリ農業學校ニ入學シタリ。——父母ノ命  
ニヨツテ農業學校ニ入學シタ。

五、ヨク勉強シタルニヨリ優等賞ヲ得タリ。——ヨク勉強  
シタカラ優等賞ヲ得タ。

六、我が國ハ多クノ島ト一ツノ半島ヨリ成ル。——我が國

ハ澤山ノ島ト一ツノ半島カラ出來テキル。

七、コレヨリ外(コノ外)ニハ、彼ノ山ニ登ルベキ道ナシ。――

コレヨリ外(コノ外)ニハ、彼ノ山ニ登レル道ガナイ。

八、左ノ文ヲ文語體ニ改メヨ。

(一) 此ノ机ハ彼ノ机ヨリ高イ。

(二) 福童ガ學校カラ歸ツタ。

(三) ヨク働イタカラ金持ニナツタ。

(四) 地球ノ表面ハ水ト陸カラ出來テキル。

(五) 友人ノ依頼ニヨツテ算術ヲ教ヘタ。

(六) 裏ノ畠ニハ麥ヨリ外植エナイ。

# 附 錄

一、本邦面積及ビ人口(内地樺太明治四十三年十二月末日調)

地 方 別	面 積 (方 里)	人 口
内地	二四、七九五	五一、四三六、〇〇〇
本 州	一四、六九一	三八、九六九、〇〇〇
四 州	一、一八一	三、一六六、〇〇〇
九 州	二、八二八	七、八五五、〇〇〇
北 海	六、〇九五	一、四四六、〇〇〇
朝鮮	一四、一二三	一三、二八七、〇〇〇
臺灣	二、三三二	三、二五九、〇〇〇
樺 太	二、二〇八	二五、〇〇〇
計	四三、四五八	六八、〇〇七、〇〇〇

## 二、本邦主要開港場

我ガ國ノ開港場ハ、内地ニ三十六、朝鮮ニ九、臺灣ニ四、樺太ニ一アリテ、總數五十ナリ。但シ、臺灣ニハ、此ノ外、支那形船ニ限リ出入スルコトヲ得ル開港場アリ。今、全國中、主要ナル開港場ヲ擧グレバ、左ノ如シ。

港名	所	在	港名	所	在	港名	所	在
橫濱	本州、神奈川縣	下關	本州、山口縣	函館	北海、海	神戶	本州、兵庫縣	朝鮮、慶尙南道
大阪	本州、大阪府	長崎	九州、長崎縣	釜山	朝鮮、京畿道	新潟	本州、新潟縣	朝鮮、咸鏡南道
名古屋	本州、愛知縣	博多	九州、福岡縣	基隆	臺灣、臺北廳			

### 三(一)吉野山(附圖參照)

吉野山ハ奈良縣<sup>ナラ</sup>吉野郡<sup>ヨシノ</sup>ニアリテ、歴史上有名ノ古蹟多シ。一目千本ハ吉野山ノ中腹ニアリ、此處ヨリ望メバ、前後左右、山上山下、皆花ナルヲ以テ、カク名ヅケラル。

### (二)瀬戸内海(附圖參照)

瀬戸内海ハ本州・四國九州ノ間ニアリテ、三方ニ海門アリ。西ハ下關門司兩港ノ相對スル所ニシテ、之ヲ關門海峡トイヒ、西南ハ即チ豐豫海峡、東南ニアルヲ紀淡海峡トイフ。門司・下關ノ外、吳軍港、神戸・大阪等ノ都會、皆此ノ内海ノ沿岸ニアリ。

(三) 阿蘇山(附圖參照)

九州ノ中央部、熊本縣阿蘇郡ニアル活火山ニシテ、高サ四千八百六十尺、山頂ノ一峰ヨリ常ニ白烟ヲ噴ク。

(四) 金剛山(附圖參照)

朝鮮江原道高城邑ノ西、數里ニアリ。太白聯脈中、最モ高キ山ニシテ、高サ凡ソ五千九百七十尺。山中寺院多ク、頗ル奇勝ニ富ム。

(五) 那智瀧(附圖參照)

本州和歌山縣東牟婁郡那智村那智山中ニアリ。高サ八百四十尺、幅十八尺、我ガ國第一ノ瀑布ナリ。

(六) 富士山(附圖參照)

富士山ハ本州ニアリ。我ガ國第一ノ名山ニシテ、圓錐形ヲナシ、頂上ニ噴火口ノ跡アリ。毎年、夏、登山ヲ試ミルモノ頗ル多ク、孩童ト雖モ其ノ名ヲ知ラザルハナシ。其ノ高サ凡ソ一萬二千三百七十尺ニシテ、臺灣ノ新高山ヲ除ケバ、我ガ國第一ノ高山ナリ。

四、君が代の歌

君が代は ちよにやちよに さゞれいしの

巖いわとなりて こけのむすまで

## 五、産業組合

産業組合トハ組合員共同ノ支出ニカ、ル一定ノ資本又ハ勞力ヲ運用シ、以テ組合員ノ産業又ハ其ノ經濟ノ發達ヲ圖ルタメ、設立セラレタル組合團體ニシテ、其ノ目的ニヨリテコレヲ左ノ四種ニ分ツコトヲ得。

### (一) 信用組合

組合員ニ産業上必要ナル資本ヲ貸付シ、又、貯金ノ便宜ヲ得シムルモノ。

### (二) 販賣組合

組合員ノ生産シタル物ヲ組合ニ取纏メ、比較的高價ニ共同販賣スルモノ。

### (三) 購買組合

組合員ノ産業又ハ生計ニ必要ナル物ヲ共同購買シテ、コレヲ廉價ニ組合員ニ賣却スルモノ。

### (四) 生産組合

組合員ノ共同資本又ハ勞力ニヨリテ生産ニ従事スルモノ、又ハ、組合員ニ

産業上必要ナル器具其ノ他ノ物ヲ貸與シテ、コレヲ使用セシムルモノ、

## 六、地方金融組合

朝鮮ニハ地方金融組合ナルモノアリ。是レ農民ノタメニ金融ノ便ヲ與ヘ、其ノ生活狀態ヲ改良シ、併セテ地方産業ノ開發ヲ目的トスル一種ノ産業組合ナリ。此ノ組合ハ一定ノ區域内ニ住居スル人民ヲ以テ組合員トシ、總督府ノ認可ヲ受ケテ設立スルモノニシテ、總督府ハ特ニ一組合ニ對シ、共同基金一萬圓ヲ下附ス。而シテ、組合ノ業務ヨリ生ズル利益ハ悉ク積立金トナシ、組合ノ基礎ノ鞏固ヲ計ルモノトス。其ノ業務ハ左ノ如シ、

- (一) 組合員ニ對シ、生産上必要ナル資金ヲ低利ニテ貸付クルコト、
  - (二) 組合員ノタメニ、其ノ生産シタル穀物ヲ倉庫ニ保管スルコト、
  - (三) 組合員ニ對シテ、種苗、肥料、農具、農業上ノ材料ヲ分配シ、又ハ貸付クルコト、
  - (四) 組合員ノタメニ、其ノ生産物ノ委託販賣ヲ取扱フコト、
  - (五) 組合員ノ依頼ニヨリ、農業材料等ノ共同購入ヲ行フコト、
- 右ノ外、或ル組合ニテハ實習農場ヲ有シテ、農事ノ模範ヲ示シ、又ハ、其ノ他ノ方法ニヨリ、常ニ組合員ノタメニ、農事ノ改良ニ力ヲ用ヒ居レリ、

## 七、契

朝鮮ニハ古來契ナルモノアリ。契約ニヨリテ成立スル一種ノ組合ニシテ、契員共同シテ一定ノ事業ヲナスヲ目的トス。コレガタメ、契員ハ金錢穀類又ハ勞力ノ出資ヲナス。

契ノ種類ハ甚ダ多クシテ、往々弊害ヲ生ジタルモノアリト雖モ、或ハ公益ヲ増進シ、風俗ヲ匡正シ、或ハ產業ヲ振興シ、金融ヲ圓滑ナラシムルモノ少ナカラズ。今、左ニ其ノ例ヲ示スベシ。

### (一) 爲親契婚姻契

爲親契ハ老親ヲ有スル者其ノ葬式ノ費用ヲ得ルタメ、婚姻契ハ子女ヲ有スル父母其ノ婚儀ノ費用ヲ得ルタメ、資金ヲ集メテ之ヲ利殖シ、其ノ折ノ費用ニ充用スルモノナリ。

### (二) 鄉約契

一鄉相依リ相輔ケテ、風紀ヲ維持スルヲ目的トシ、其ノ地ノ學者先輩等相集リ組織スルモノナリ。又、地方ノ風習ニヨリ、古稀以上ノ老人ノ壽賀ヲ行ハンガタメ、其ノ費用ヲ得ルヲ目的トスルモノアリ。

### (三) 牛契

牛ヲ有スル者、牛ノ死シタル時、更ニコレヲ購入スル費用ヲ得ルタメ出資シ、契員相互ニ保險スルモノナリ。

### (四) 殖利契・取利契

零碎ノ資金ヲ集メテ、契員又ハ契員以外ノモノニ融通シ、其ノ利益ヲ契員ニ分配シ、又ハ、資金ニ編入スルモノニシテ、一種ノ信用組合ナリ。

### (五) 農事契

採草ノ時期ニ於テ、里民二三十名一團トナリテ、契員ノ田地ヲ輪耕シ、其ノ動作ハ總ベテ監督者ノ指揮ニヨリテ、團體的ニコレヲ行ヒ、契員中ノ最少耕作地所有者ヲ標準トシテ、其ノ所有地ヨリモ多クノ耕作ヲナシタル者ニハ、日數ニ應ジ賃金ノ支拂等ノコトヲナシテコレヲ獎勵シ、カクシテ、里内農作物ノ好成績ヲ收メントスルモノナリ。

### (六) 養蠶契

共同シテ蠶種ヲ購入シ、稚蠶ヲ飼育シ、成繭ヲ販賣シ、或ハ教師ヲ聘シテ飼育上ノ實地指導ヲ受ケ、或ハ講習會ヲ開キテ蠶業上ノ學理ヲ研究シ、或ハ

共同殺蝨場ヲ設ケテ契員ノ使用ニ供スル等ノコトヲナスモノナリ。

### 八、振替貯金ノ組織

振替貯金ハ、金錢ノ收支頻繁ナル商人ナドニ取リテ、送金上最モ便利ナル方法ニシテ、郵便局ハ振替貯金加入者ノタメ、一々其ノ口座ヲ設ケ、各人ノ預ケ金ヲ單ニ帳簿ノ上ニテ受入レ、又ハ、拂渡スヲ以テ、種々ノ手數ト經費トヲ省クコトヲ得。其ノ受入、拂渡ノ方法ハ左ノ如シ。

(一) 加入者又ハ其ノ他ノモノヨリ、現金又ハ郵便官署ノ定メタル證券ヲ以テスル拂込ヲ、指名加入者ノ口座ニ受入ル、コト。

(二) 加入者ノ請求ニヨリ、加入者ノ口座間ニ於テ、相互ノ貯金ノ振替ヲナスコト。

(三) 加入者ノ請求ニヨリ、其ノ口座ノ貯金ヲ拂出シ、同人又ハ其ノ指名人ニ現金ノ拂渡ヲナスコト。

### 九、農産物種子ノ郵便料

農産物種子ハ通常郵便物中第五種ニ屬スルモノニシテ、其ノ郵便料ハ重量三十匁迄金一錢ナリ。三十匁以上ハ、三十匁迄ヲ増ス毎ニ、金一錢ヲ増ス。

## 十、蠶種ノ催青

蠶種ハ自然ニ孵ラシムレバ、蠶兒ノ發生揃ハズシテ、飼育上不便大ナルヲ以テ、人工ニヨリ溫度ヲ與ヘ、蠶兒ヲ同時ニ孵ラシム。コレヲ催青トイフ。

催青ヲ行フ時期ハ、早生桑ノ新芽漸ク開キタル頃ニシテ、蟻蠶掃立ノ豫定日ヨリ、約二週間前ヲ適當トス。コレヲ行フニハ、催青器ヲ用フルモ可ナレドモ、簡易ニ行ハントセバ、溫突室又ハ六疊ホドノ暖キ一室ヲ催青室ニ充テ、其ノ中ニ棚ヲ設ケテ、コハ、ニ蠶種ヲ並ベ置キ、又ハ、同様ノ室内ニテ竿ニ蠶種ヲ吊シ置キ、順次溫度ヲ高ムベシ。カクテ、二週間ノ後ニハ、蟻蠶ノ發生ヲ見ルニ至ルベシ。催青室ハ溫度ノ高マルニ隨ヒ、次第ニ乾燥スルガ故ニ、或ハ濕布ヲ吊シ、或ハ撒水シ、或ハ湯釜ヲ置ク等ノ方法ニヨリ、適宜水分ヲ放散シ、始終溫度ヲ七十五度内外ニ保ツベシ。又、常ニ新鮮ナル空氣ノ供給ヲ計ルコト肝要ナリ。

## 十一、桑ノ仕立方

桑ノ仕立方ハ、氣候、土質及ビ桑ノ種類等ニヨリ、一ナラズ、普通行ハル、方法ハ根刈、中刈及ビ高刈ノ三トス。

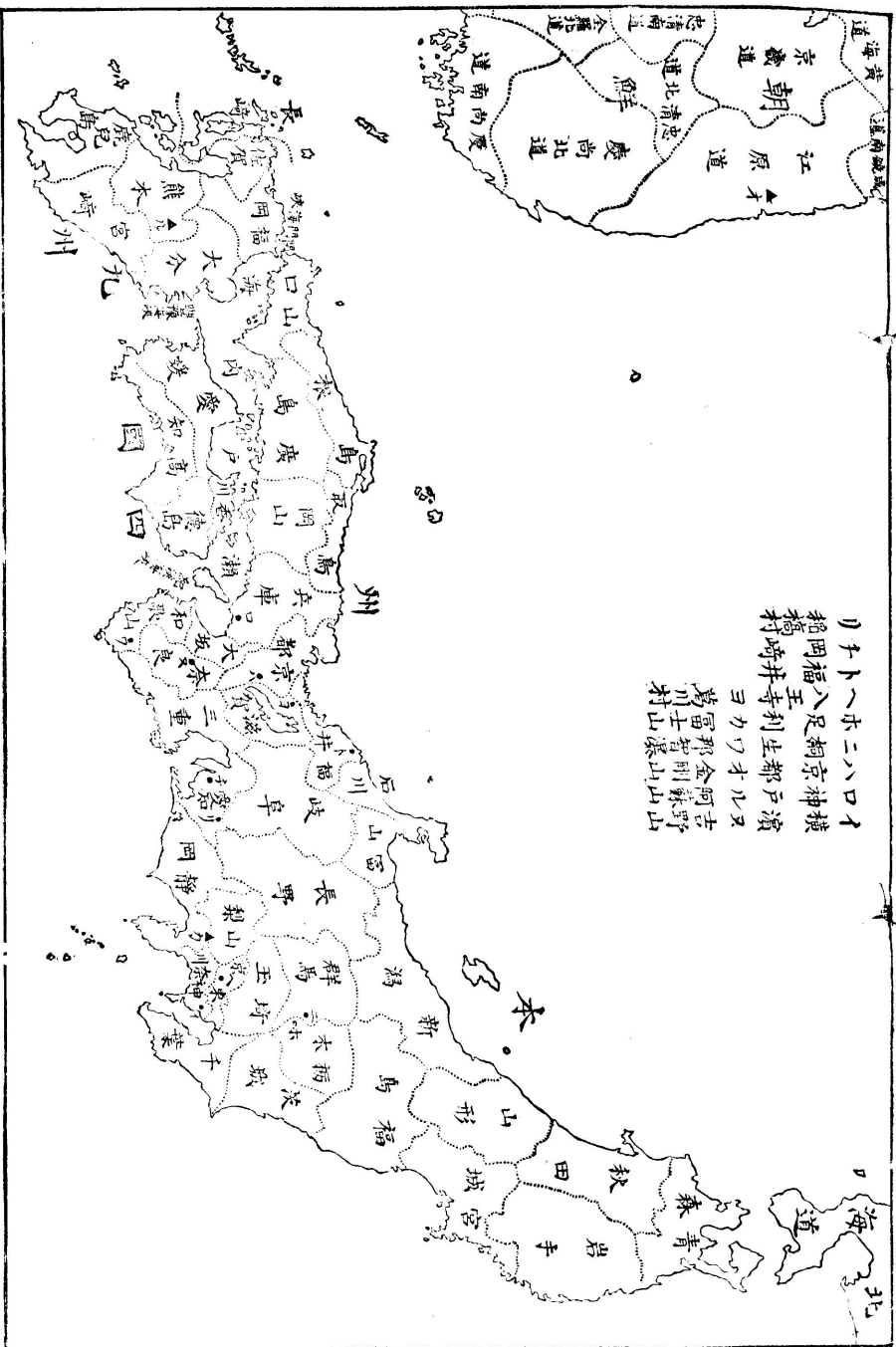
(一) 根刈仕立 桑ノ木ヲ根際ヨリ伐リ、コヽヨリ多クノ枝ヲ發生セシメ、年々コレヲ刈リ取ルモノナリ。溫暖ナル地方ニ適ス。此ノ仕立方ハ、幹ニ蟲類ノ害少ナク、且ツ、桑ノ葉ヲトルニ便利ナリ。然レドモ、寒害及ビ萎縮病ニ罹リ易ク、又、葉ニ土ノ附著スル等ノ缺點アレバ、此等ニ對スル注意ヲ必要トス。朝鮮中部以南ニ於テハ最良ノ仕立方ナルベシ。

(二) 中刈仕立 毎年、地上一尺乃至三尺ホドノ所ヨリ、桑ノ木ヲ伐リ、ソコヨリ發生スル枝ヲ年々伐リ取ルモノナリ。多クハ山間ノ傾斜急ナル所、又ハ、氣候稍、寒冷ナル地ニ行ハル。朝鮮中部以北ニ於テハ適當ノ仕立方ナルベシ。

(三) 高刈仕立 略、中刈仕立ト同ジ。唯、三尺以上六尺ホドノ所ヨリ、枝ヲ刈リ取ルノ差異アルノミ。浸水ノ起リ易キ河邊等ニ最モ適シタル仕立方ナルベシ。幹ニ天牛蟲(かみきりむし)ノ害多キト、桑ヲトルニ不便ナルトハ、此ノ仕立方ノ缺點ナリ。

## 十二、參考地圖

リチトへホニハロイ  
橋岡福王利生都戸濱  
村崎井奇  
ヨカワオルヌ  
葛富那金阿吉  
村士智剛諒野  
村山瀑山山



明治四十四年十二月十三日印刷  
明治四十四年十二月十五日發行  
明治四十五年七月五日再版  
大正二年一月十五日三版

定價金六錢

# 朝鮮總督府

總務局印刷所印刷

